

地方創生推進交付金の効果検証【外部評価】

令和元年11月実施

事業効果(自己評価)の区分(①非常に効果的であった、②相当程度効果的であった、③効果があった、④効果がなかった)

外部有識者の評価の区分(①有効であった、②有効とは言えなかった)

No	交付対象事業の名称	事業概要	交付金実績額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			事業終了後における実績値	達成率	事業効果(自己評価)	外部有識者の評価	
			単位:円	指標	指標値	単位	実績値			事業の評価	外部有識者からの意見
1	都心から1時間で出会うスローライフ体験事業(H28年度~H30年度)	<p>【全体概要(目的)】</p> <p>秦野市は都心から1時間程度の距離にあり、都心と豊かな自然「丹沢」が共生する「いい意味での田舎」である。しかし、豊かな自然はあるものの、観光資源・施設が点在しており、周遊性や滞在性に結びついていない。また、当市の9割を占める日帰り観光客が立寄る飲食店や魅力ある商品などが少ないため、市内での消費額が少なく、地域経済の活性化に結びつきにくいことが課題となっている。そこで、ひと・まち・自然という「秦野らしさ」に磨きをかけながら、“住み続けたい・住んでみたい魅力あふれるまち”として魅力を発信し、人の流れを呼び込み、まちの賑わいを創出することを本事業の目的とする。</p>	4,989,600	年間観光客数(増加分)	42,000	人	464,000	1105%	③効果があった (評価理由) 交付金充当事業に係る予算を計画どおり執行することができたため効果があったと判断した。	①有効であった	<ul style="list-style-type: none"> 観光客消費額の算出方法については、より客観的な数値を把握するための研究が必要です。 周遊性・滞在性を高める事業としての効果を検証するため、拠点施設へのヒアリングや現在データを取っていない施設の利用者数の把握など、客観的な証拠を収集する工夫が必要です。 本事業は、新東名高速道路の供用開始を契機に、秦野SA周辺を新たな拠点とした周遊ルートを構築し、車での来訪者増加につながる事業であるため、新東名高速道路供用開始後における効果検証の仕組みについても検討する必要があります。
				観光客の年間消費額(増加分)	0	円	-	-			
				観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録	0	個	-	-			
			12,474,000	年間観光客数(増加分)	44,000	人	17,000	39%	③効果があった (評価理由) 3年間の事業であり、事業の効果を発揮できる段階に至っていないものの、年間観光客数は増加した。		
				観光客の年間消費額(増加分)	0	円	-	-			
				観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録	0	個	-	-			
			11,205,000	年間観光客数(増加分)	44,000	人	-49,000	-111%	③効果があった (評価理由) 年間観光客数及び観光客年間消費額は減少したが、新たな観光推奨品の登録は指標値を上回る登録ができた。		
				観光客の年間消費額(増加分)	57,882,000	円	-26,000,000	-45%			
				観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録	3	個	5	167%			

地方創生推進交付金の効果検証【外部評価】

令和元年11月実施

事業効果(自己評価)の区分(①非常に効果的であった、②相当程度効果的であった、③効果があった、④効果がなかった)

外部有識者の評価の区分(①有効であった、②有効とは言えなかった)

No	交付対象事業の名称	事業概要	交付金実績額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			事業終了後における実績値	達成率	事業効果(自己評価)	外部有識者の評価					
			単位:円	指標	指標値	単位	実績値			事業の評価	外部有識者からの意見				
2	日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯「鶴巻温泉」と表丹沢(大山)の地域連携によるまちづくり・経済活性化支援事業(H28年度～H30年度)	<p>【全体概要(目的)】</p> <p>鶴巻温泉は日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯であり、東京の奥座敷とも言われ、当該駅周辺は地域住民への商業等の機能を持った拠点であると同時に、温泉地という地域特性をもっている。また、本市と伊勢原市、厚木市をつなぐ大山は神奈川県有数の観光地のひとつであり、日本三百名山や関東百名山のひとつでもある。本市が取り組む鶴巻温泉街の再活性化に向けた、受け入れ体制強化の一環として、鶴巻温泉と大山のルート整備を図ることで、入込客の増加、及び発着地の経済活性化に資することを目的とする。</p>	6,480,000	【H28年度実績】 大山と鶴巻温泉という自然・歴史・生活文化という地域特性のある二大観光地拠点を公共交通機関で結び、観光客の回遊性を高めることで、鶴巻温泉地区の観光客の増加や経済の活性化を図るため、関係機関等による会議を立ち上げ、観光ニーズの把握調査、路線バスの運行計画案の策定、観光振興策の検討を行った。	鶴巻温泉の観光客数(全国)※増加分	0	人	-	-	③効果があった (評価理由) 交付金充当事業に係る予算を計画どおり執行することができたため効果があったと判断した。	①有効であった	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢原駅から大山ケーブル駅へのバス利用者も増加傾向にあるため、事業の効果として広がりがあったものと考えられます。 トップシーズンとなる紅葉(秋)時だけでなく、年間を通じた利用者の需要を掘り起こすことにより、持続的な運行につなげるための継続した努力が必要です。 観光客受け入れの核となる市営の温泉入浴施設が混雑しているときは、他の施設での受け入れ態勢を強化するなど、地区全体での波及効果を広げる取組みが必要です。 			
			12,474,000	【H29年度実績】 関係機関等による協議会、鶴巻温泉地区関係者による検討会を行うとともに、大山～鶴巻温泉間の路線バスの実証運行、実証運行による効果検証、実証運行のPR、本格運行計画(素案)の立案を行った。	鶴巻温泉の観光客数(全国)※増加分	0	人	-	-				②相当程度効果的であった (評価理由) 3年間の事業であり、事業の効果を発揮できる段階に至っていないが、昨年、路線バスの実証運行をしたことにより、弘法の里湯の利用者数も増加している。		
					鶴巻温泉への年間訪問割合(市民)※増加分	2	%	2	100%						
					大山～鶴巻温泉バス利用者数(H29年度の実証運行に対する割合)※増加分	0	%	-	-						
					5,240,000	【H30年度実績】 関係機関等による協議会、鶴巻温泉地区関係者による検討会を行うとともに、昨年度の結果を踏まえ、より本格運行に近い形で大山～鶴巻温泉間の路線バスの実証運行を行った。また、実証運行による効果検証、実証運行のPR、本格運行計画(素案)の立案を行ったほか、来年度以降の経済活性化策の検討を行った。	鶴巻温泉の観光客数(全国)※増加分	20,000	人				-37,000	-185%	③効果があった (評価理由) 実証運行を行ったバスの利用者数が、62.2%増加したため。しかしながら、鶴巻温泉自体の観光客は減少しているため、引き続き事業を実施していく。
					鶴巻温泉への年間訪問割合(市民)※増加分	5	%	2	40%						
					大山～鶴巻温泉バス利用者数(H29年度の実証運行に対する割合)※増加分	10	%	62	622%						